

(2) 期待される効果

協働による歴史文化資源の調査、学識経験者・市民などを交えた策定委員会での検討や、上位計画・関連計画を踏まえた構想の策定を通じて、行政としての一貫性を保ち、関係部局などとの連携や情報共有を図りながら、ニーズを捉えた計画的・戦略的な保存・活用のための指針となることが期待されます。

本構想は長期的な視点に立って、今後の文化財保護施策の方針を定める「文化財保護のマスタープラン」であり、文化財とその周辺環境を含め、今後の具体的な保存・活用の取り組みを進めていく場面においても、関連する施策や、周辺環境の保全施策などを担当する他の部局との連携・協力のもとで実施されることも期待できます。

第Ⅱ章 歴史文化の特性と関連文化財群

1. 歴史文化を育んだ背景

(1) 自然・地理的な環境

名取市は、宮城県中南部の太平洋側に位置し、北は政令指定都市の仙台市、南は岩沼市と接し、東西約15km、南北約8km、面積98.17k㎡の市域を有する、人口約78,000人の市です。

気候は温帯湿潤気候に属しており、年間の平均気温が約12.4度、真夏の平均最高気温が約27.5度、真冬の平均最低気温が約-3度で、冬期は東北地方としては温暖で、夏期も太平洋の海風の影響でしのぎやすい気候になっています。西部は奥羽山脈から連なるなだらかな丘陵地で、東部は低平な沖積平野が広がり太平洋に面しています。市内を流れる主要な河川には、名取川と増田川があります。仙台市との境付近を東流する名取川は、山形県境の^{かむるだけ}神室岳(1,356m)を源とし、閑上で太平洋へとそそいでいます。増田川は^{たかだてやま}高館山(203m)に源を發し、^{たるみず}樽水ダムを経て市街地を貫流し閑上(広



図4：名取市の位置

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温 (°C)	6.4	6.8	9.7	14.6	18.7	22.4	25	27.5	24.5	19.7	14.6	9.3	16.6
平均気温 (°C)	1.8	2.2	4.8	9.8	14.4	18.9	21.9	23.9	20.9	15.3	9.7	4.6	12.4
最低気温 (°C)	-3	-2.7	-0.4	5	10.6	15.9	19.5	21.2	17.5	10.8	4.7	-0.2	8.2
降水量 (mm)	32.3	26.6	45.1	90.8	96.9	109.5	178.8	136.3	136.6	161.9	83.8	60.9	1159.6

表3：年間の平均気温と降水量

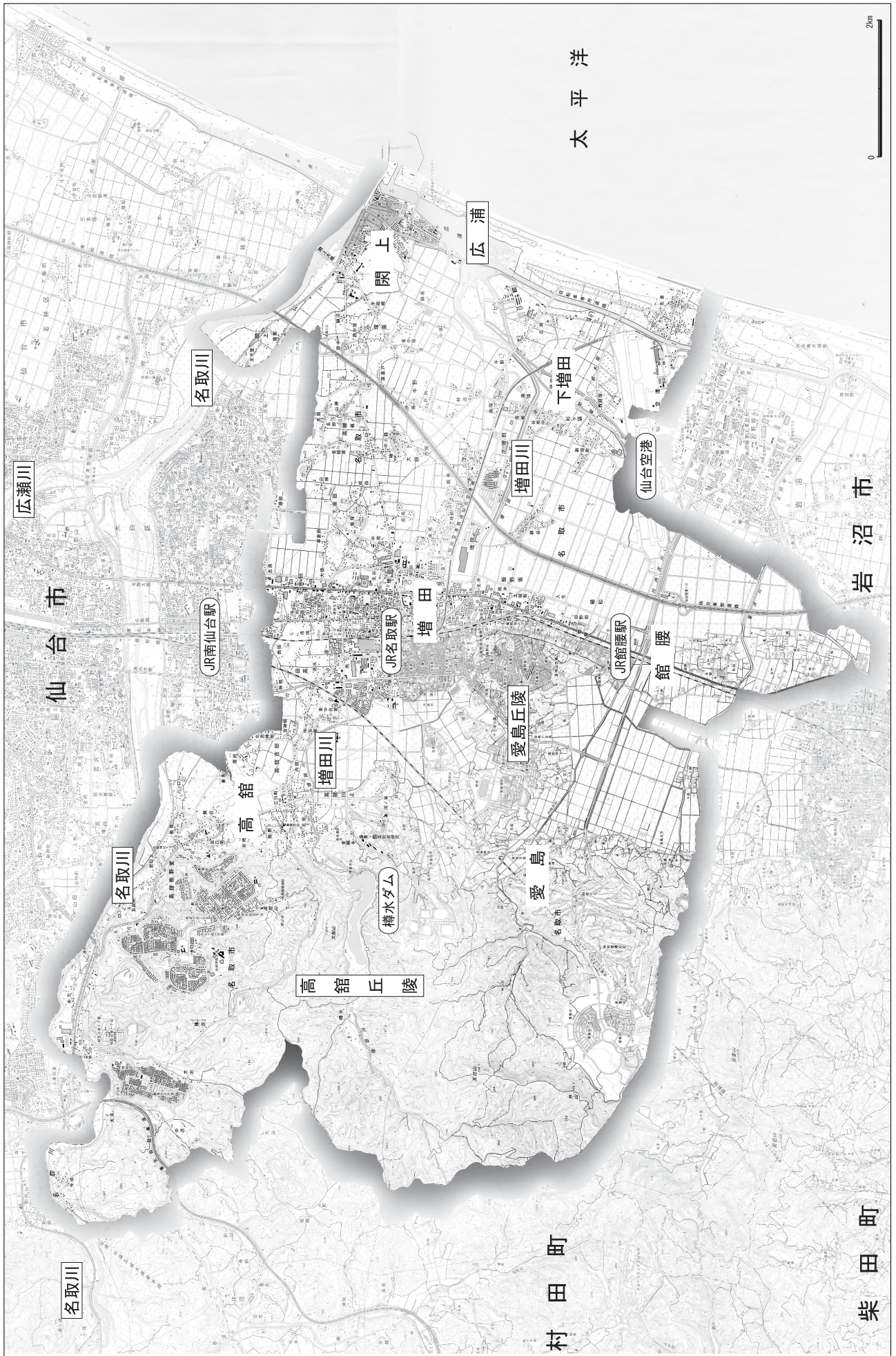


図5：名取市の地形図

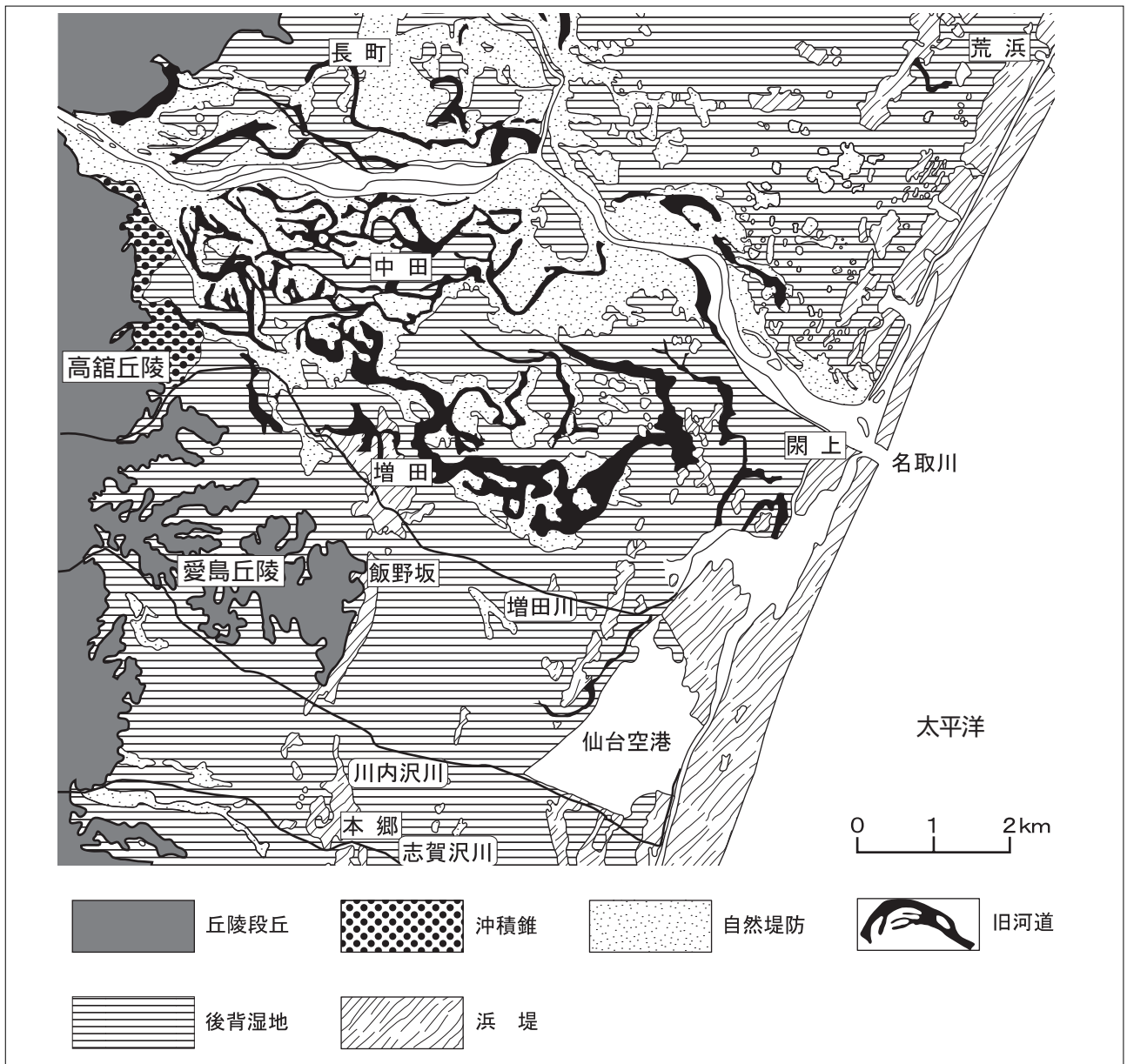































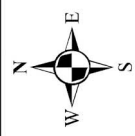
図6：名取市の微地形図

浦)へと流下しています。中流域は都市化が進みましたが、上流部、河口部には自然が多く残されており、流域にはヘイケボタル、イトヨ、スナガニなどの貴重な生物もみられます。西部の丘陵地には近世以降に杉や竹が植林され、里山的な農村風景がみられましたが、近年では、新しい団地や大学が設けられ、緑と融合した小さな文教都市おうちゅうがつくられています。平野部では奥州街道沿いを中心に集落が形成されました。集落や畑は、浜堤や自然堤防と呼ばれる水はけのよい微高地が選ばれ、その周辺の泥炭・粘土層の低湿地は主に水田として利用されてきました。当地域は、「名取耕土」と呼ばれる肥沃な大地のもと、古くから稲作を中心として発展してきましたが、近年では大都市近郊という立地条件を活かし、カーネーションやセリなどの野菜・園芸作物の生産にも力を入れています。沿岸域には、仙台藩直轄の港であった関上漁港があり、かつては貝、小魚が豊富に水揚げされ、海苔の養殖も行われていました。

名取市 自然環境MAP

凡例

-  名取市
-  緑地環境保全地域
-  県自然環境保全地域
-  天記・巨樹・古木
-  希少な植物群落
-  冷温帯針葉樹林
-  溪畔林
-  沼沢林
-  河辺林
-  二次草原
-  伐採跡地群落
-  常緑広葉樹林
-  暖温帯針葉樹林
-  落葉広葉樹二次林
-  常緑針葉樹二次林
-  二次草原
-  伐採跡地群落
-  常緑広葉樹林
-  暖温帯針葉樹林
-  落葉広葉樹二次林(コナラ群落)
-  タケ・ササ群落
-  湿原・河川・池沼植生
-  塩沼地植生
-  砂丘植生
-  植林地
-  竹林
-  牧草地・ゴルフ場・芝地
-  耕作地
-  市街地等



1:75,000

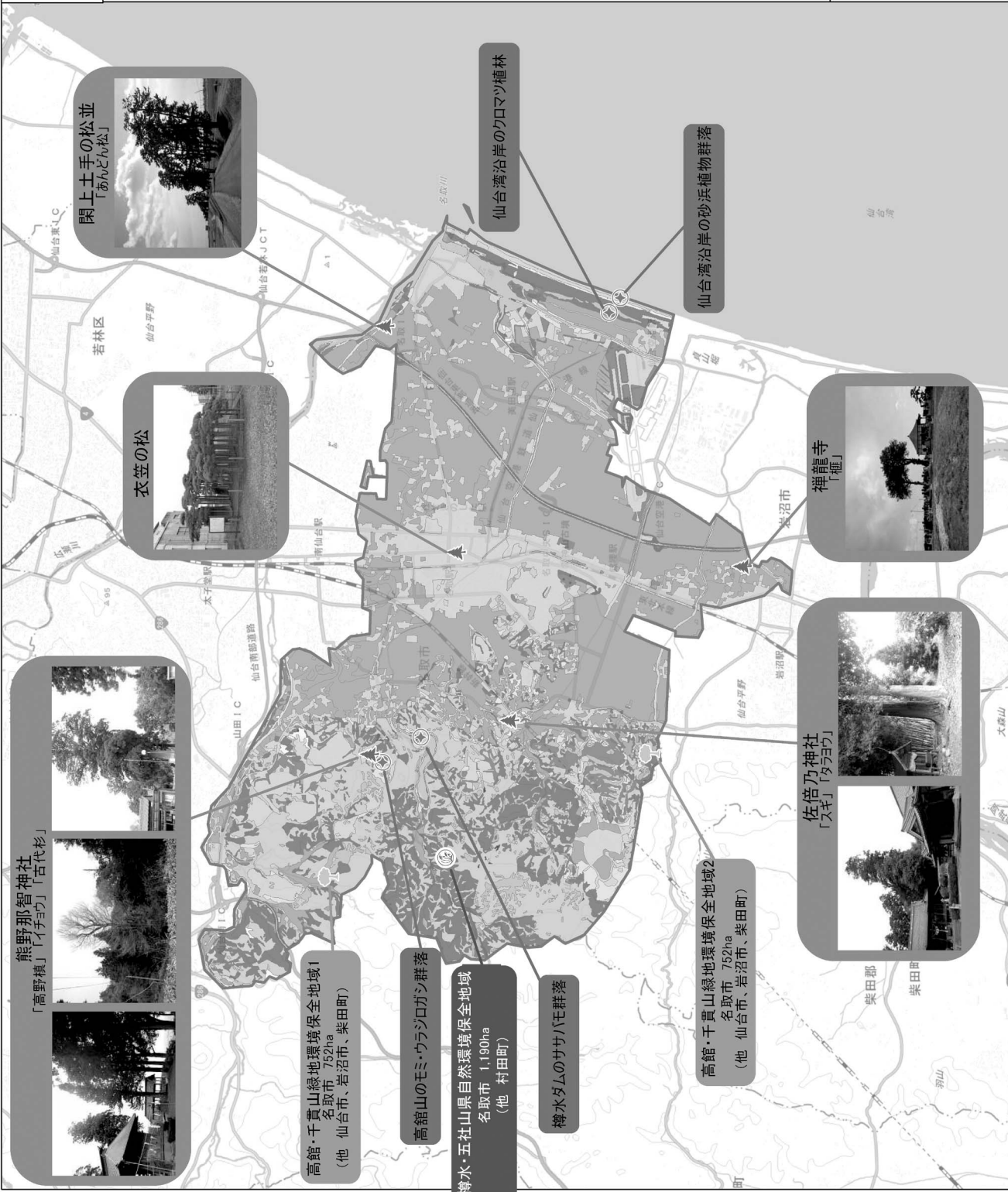


図7：名取市の植生

気候は温帯湿潤気候であり、太平洋岸気候区に属しています。季節の区分は比較的明確で、色彩豊かな自然景観の中に春夏秋冬を肌で感じることができます。雨量は県内でも少ない方で、夏は湿気を持った南東風が吹き込み高温多湿の気候となります。梅雨の時期には低温多湿な海風であるヤマセが吹き、小雨まじりの冷涼な天気が続きしばしば冷害をもたらしました。

西部の丘陵地帯の植生は、落葉広葉樹二次林(コナラ)が最も優先しており、次いで常緑針葉樹二次林(アカマツ)が多くみられます。また、高館山周辺は、モミ、ウラジロガシ、スダジイの常緑樹林の北限域であり、唯一この地域の原生林の面影を残しています。宮城県自然環境保全地域、同緑地環境保全地域にも指定されています。沿岸部には、クロマツ林や砂丘植物群落(ハマニンニク、コウボウムギ、ケカモノハシ)がみられ、県内では最大の分布地でしたが、東日本大震災時の津波と地盤沈下により、樹木や植物群落はほとんど壊滅状態となりました。

(2) 社会的・歴史的な背景

① 名取市の歴史

【旧石器時代】

本市における最古の人の痕跡は、^{めでしま}愛島丘陵に立地する野田山遺跡から出土した後期旧石器時代のナイフ形石器や石刃など^{せきじん}で、今から約20,000年前のものと考えられています。当時は最終氷河期にあたる寒冷な気候で、海水面は現在より約100m低く、海岸線は、現在より45km以上沖合にあったとされています。

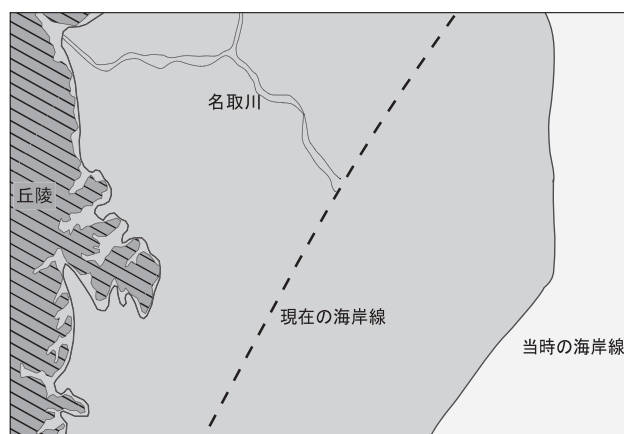


図8：約20,000年前(旧石器時代)の地形

【縄文時代】

名取市内には29ヶ所の縄文時代の遺跡が確認されており、高館丘陵の東端部あるいは^{いまなり}愛島丘陵の平坦部に立地するものが大半ですが、市西端部の今成遺跡など、名取川中流域に立地しているものもあります。

平野部では集落は確認されていませんが、自然堤防上の原遺跡では、少数ながらも縄文時代晩期の土器が出土しており、その頃までには平野部で何らかの人々の活動があったことを示しています。

このような遺跡の分布は、地球温暖化に伴う海面上昇(縄文海進)により、縄文時代前期(約6,000前)頃に海岸線が最も内陸に入り込み、その後、徐々に後退したとする地形や気候の変遷と符合しています。

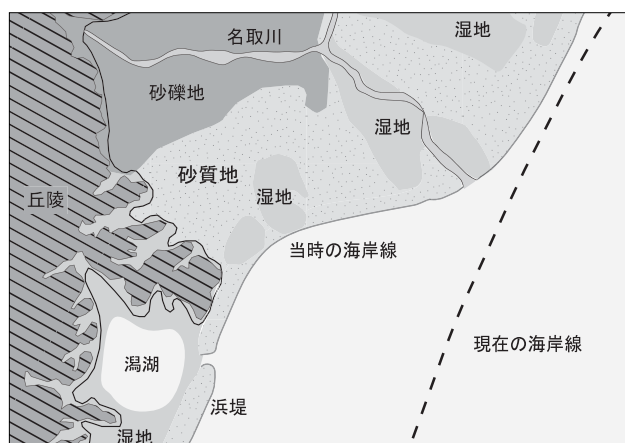


図9：約5,000年前(縄文時代)の地形

縄文



図10：縄文時代の遺跡分布

市内には過去の海岸線の位置を示す微高地の浜堤が3列あり、内陸側から順に第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ浜堤と呼ばれます。

当時の市内の遺跡は、漁労に適した小高い台地上や先端部に集落が営まれる場合が多く、そこには魚介類の食べかすを捨てた貝塚が形成されるのが特徴です。また、周辺は落葉広葉樹に覆われていたことから食用となる植物や動物も豊富で、成熟した狩猟・漁労・採集文化が展開されていたことでしょう。特に、海水が内陸深く入り込み愛島丘陵の南側一帯が内湾状となっていたと考えられる縄文時代の前期頃には、今熊野遺跡や泉遺跡で非常に規模の大きな集落が営まれ、土器や石器などの他、装飾品や土偶など多数の出土品も発見されています。その当時から名取の地は、暮らしに適した場所であり多くの人達の生活の舞台となっていた事が分ります。

【弥生時代】

紀元前4世紀ごろ、東北地方にも稲作農耕が伝わり、生業が転換する大きな画期を迎えました。弥生時代の気候は、比較的短い間に寒冷化と温暖化が繰り返されており、自然条件に左右されながらも、人々はそれに適応した農耕社会を築きました。

弥生時代の遺跡は35ヶ所で確認され

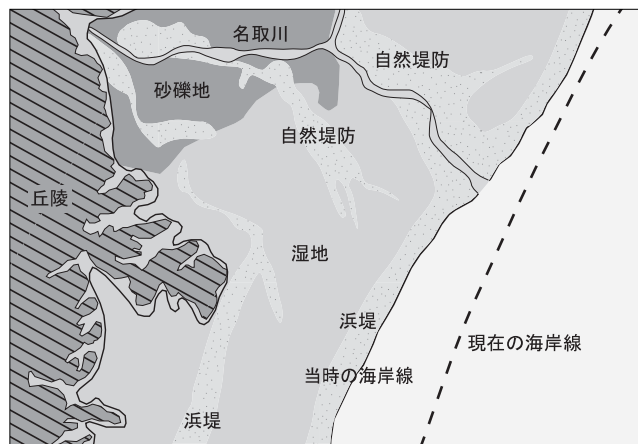


図11：約2,000年前(弥生時代)の地形

ており、縄文時代以来の平野を望む低丘陵上に立地するものの他、新たに沖積平野の自然堤防上に進出するものが現れます。微高地の1つである自然堤防は、排水条件の良い地盤のため集落や畑地に適しており、その周辺の後背湿地を開墾して稲作を行っていたのでしょう。

この時代の後半は、気候の寒冷化に連動して北方の東北北部や北海道の土器に似たものが作られるようになり、住居形態も小形で簡素なつくりのものになりました。集落構造も小規模で、人口もかなりの割合で減少したことが想定されています。

丘陵上に立地する遺跡には十三塚遺跡があり、昭和15年の調査において発見された土器が後に中期後半の「十三塚式」として設定された標識遺跡です。昭和49年以降に行なわれた調査で西日本の前期の土器（遠賀川式土器）に類似する土器が見つかり、弥生時代の比較的早い段階に稲作を始めとする大陸系弥生文化が西日本から当地へ伝わっていたことを示すものです。

平野部の自然堤防上に立地する原遺跡は、中期前半の土器型式として「原式土器」の標識遺跡として著名です。明確な竪穴住居跡は確認されていませんが、墓域（土器棺墓）や河川跡、遺物包含層（ごみ捨て場）が発見され、多量の土器とともに石包丁や鎌のように使った板状石器も出土しています。

弥生



図12：弥生時代の遺跡分布

【古墳時代】

古墳時代は、支配階級の墓として、墳丘を持つ墓が造られた時代です。弥生時代後期文化とつながる要素は全く見られず、古墳文化との隔たりは大きいものがあります。このことから、南関東や北陸からの移住説も唱えられていますが、少なくとも他の地からその文化を携えた人々が到来したことは間違いのないでしょう。気候は前代に比べさらに寒冷化し、生活の糧となる稲作農耕を行うには、かなり厳しい環境であったようです。

古墳時代の遺跡は95ヶ所で確認されており、前代に比べて約3倍も増加しています。海岸線に近い第Ⅱ浜堤上にも遺跡が形成され、平野部全体に広がりを持つようになります。高塚古墳は60基以上確認されており、東北地方で全長50mを超える古墳が最も多く分布しているところです。仙台平野の古墳時代墳墓は、9つの小地域にグループ分けできるとされており、このうち2つは、愛島丘陵と下増田地区の第Ⅱ浜堤上に分布するものです。

前期(3世紀後半～4世紀)とされる古墳の形態には、前方後方墳、前方後円墳、方墳、円墳とバリエーションがあり12基確認されています。愛島丘陵北東端部の国指定史跡飯野坂古墳群しせきいのみさかふんぐんは、5基の前方後方墳(40～67m)が連続して築造されており、この地域を治めた歴代の首長墓と考えられています。また、前期の終わり頃になると、全長168mの東北最大の前方後円墳として知られる史跡雷神山古墳らいじんやまが築造され、その

古墳



図13: 古墳時代の遺跡分布

被葬者は、仙台平野とその周辺地域を統治した首長とされています。この他に、天神塚古墳や宇賀崎古墳群の小規模な方墳の存在も知られています。また、これらの古墳と同時期に低墳丘の方形周溝墓という形態の墓も造られていました。丘陵部の今熊野遺跡、五郎市遺跡、第Ⅱ浜堤上の下増田飯塚古墳群などがあります。

中期（5世紀）に入ると方形周溝墓は姿を消し、5世紀半ば頃までの間は、造られる古墳の数が大きく減少します。これは東北地方一円で見られる現象です。数少ない事例として、経の塚古墳があります。第Ⅱ浜堤列上に立地し、墳丘は崩されて失われてしまいましたが、長持形石棺を内部主体とし、鹿角製装具を装着した直刀などが副葬されていました。鎧（甲冑）形埴輪・家形埴輪・円筒埴輪が見つかり、これらの埴輪は国の重要文化財に指定されています。

5世紀後半には、活発に古墳が築造されるようになります。それまでに古墳が造られなかった地域や、前期古墳とは築造される場所が変わっており、新たな勢力が台頭してきたと考えられています。市内ではこのような動向と軌を一にして、前方後円墳・大型円墳に加えて中小規模の円墳が多数築造されていきます。第Ⅱ浜堤列上には、経の塚古墳の北側1kmのところに、大型円墳の毘沙門堂古墳が築造され、さらに塚根塚古墳・雷神塚古墳・兵糧塚古墳などの円墳が築造されていきます。

一方、長く人々の生活の舞台の中心となってきた愛島丘陵には、中期最大規模を誇る名取大塚山古墳(前方後円墳:全長約90m)を中心として、その付近の丘陵上には約30基(小型の前方後円墳を含む)の群集する賽ノ窪古墳群が後期(6世紀)まで存続しています。

終末期(7世紀)になると、前方後円墳の築造は終わりを告げ、新たに横穴式石室を持つ円墳や、横穴墓が築造されます。現存しませんが飯野坂古墳群の南側に所在した山圍古墳では、頭椎太刀やガラス玉等の副葬品が見つっています。頭椎太刀は畿内政権と結びついた氏族との関連を示唆するもので、本地域一帯を掌握する勢力を保持していた首長の存在が浮かびあがってきます。

横穴墓は西部丘陵の斜面や愛島丘陵の縁辺部に、熊野堂横穴墓群・北野横穴墓群・小豆島横穴墓群・館腰横穴墓群等が確認されています。熊野堂横穴墓群は、7世紀～8世紀にかけて100基以上構築されており、周辺の支配者層の家族墓的な性格を持つ集団墓と推定されています。土師器・須恵器とともに直刀・矛・鉄鏃等の武器類や勾玉・切子玉・鈴釧・金環等の装飾品が出土しています。

このような古墳の形態や出土遺物から、当地の首長層が畿内政権と政治的関係を結び、次第に新たな身分秩序のなかに取り込まれていった様子をうかがい知ることができます。そして、終末期古墳や横穴墓に葬られた人々は、古代律令国家の支配体制のなか組み込まれていったのでしょう。

【奈良・平安時代】

古墳時代の寒冷な気候も8世紀になると落ち着きを見せ、これ以降に気候は温暖

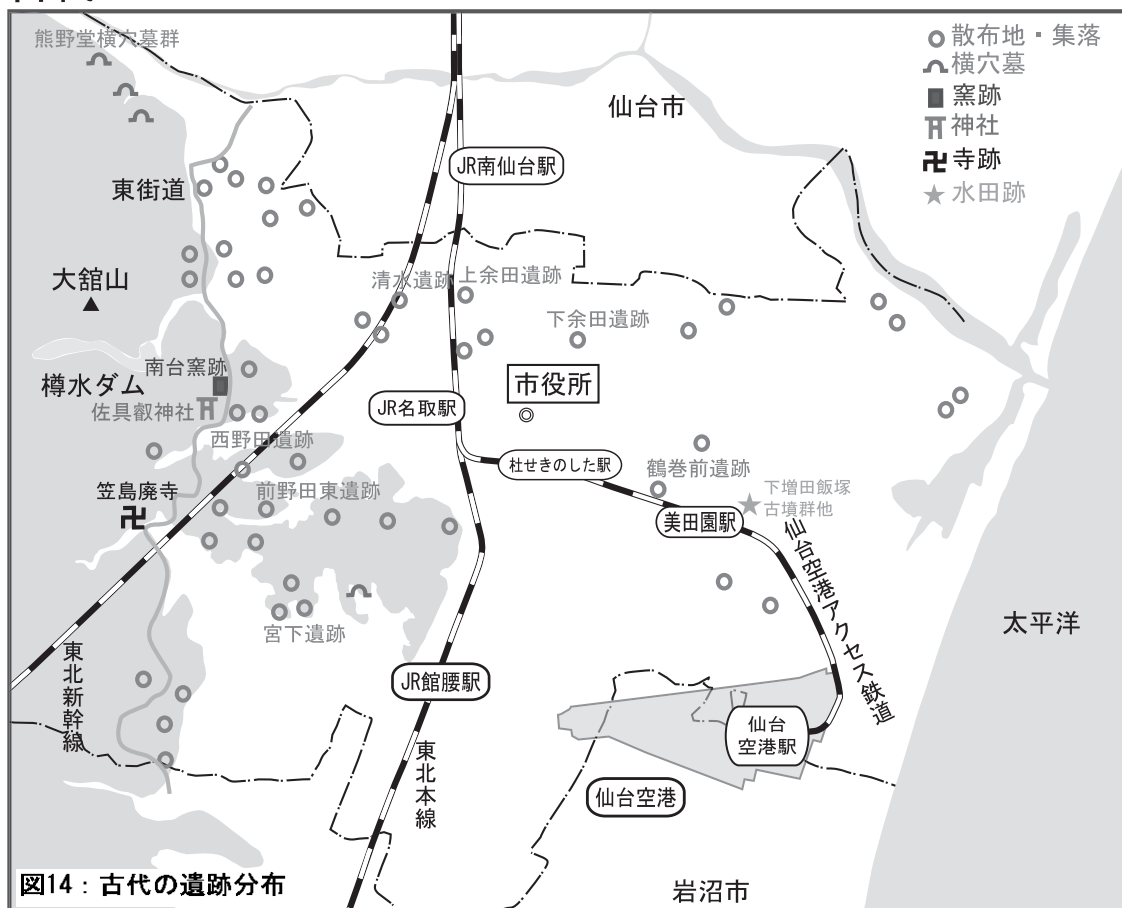
化へと向かいました。当時の海岸線は、第Ⅲ浜堤列よりやや内陸側の現海岸線より1kmほど内陸にあったと考えられています。

平安時代の前半は日本列島各地で地震・火山灰噴火が頻発した大地動乱の時代と言われています。陸奥国では貞観11年（869）にマグニチュード8.3以上の大地震が発生したことにより、国府多賀城は甚大な被害を受け、沿岸部には巨大津波が現在の海岸線よりも4～5kmのところまで押し寄せました。また、10世紀初め頃には十和田火山の爆発による火山灰が仙台平野まで到達し、火山灰で埋もれた水田跡も発見されていることから、農作物にも相当な被害をもたらしたのでしょう。

古代の名取郡は、現在の名取川流域から阿武隈川北岸一帯までの範囲を有し、陸奥国南部や東国からの移住者が多かった地域と考えられています。名取郡には指賀・井上・名取・磐城・余部・駅家・玉前の七郷があると倭名類聚抄に記されていますが、その大半は現在どこの地であるのか、はっきりしていません。

この時代の遺跡の立地も、愛島丘陵北側の沖積平野・浜堤・自然堤防上や愛島丘陵上を中心に分布しており、前者に展開する集落遺跡には清水遺跡・上余田遺跡・下余田遺跡・鶴巻前遺跡が、後者には北東宮下遺跡・宮下遺跡・前野田東遺跡・西野田遺跡等があります。清水遺跡ではこの時期に最も住居数が増え、特殊な竪穴住居や須恵器の円面硯、墨書土器等も出土しており、一般の集落とは異なる公的な様相も指摘されています。一方、北東宮下遺跡では、溝の区画内に配置された竪穴住

古代



居跡・掘立柱建物跡が見つかっており、9世紀～10世紀頃の律令制下の末端に属する郷・里等の、名取郡内の一村落にあたるものと推定されています。また、前野田東遺跡は、溝で長方形に区画された中に掘立柱建物が規則的に配置されており、役所などに関連する施設と考えられています。

【中世】

文治5年(1189)に源頼朝と奥州藤原氏との間に奥州合戦が起こり、この時、熊野別当や名取郡司も参加していたことが「吾妻鏡」に記されています。奥州藤原氏が滅びると、名取郡は関東の武士(和田・三浦氏)へ勲功の賞として領地が与えられましたが、鎌倉時代後半には幕府で最も権力を握っていた北条氏の領地となりました。

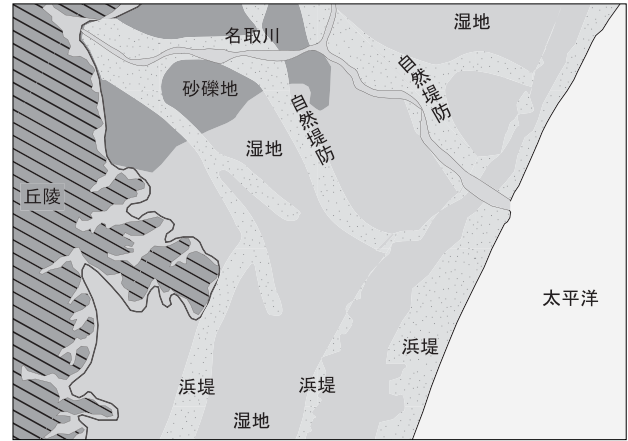


図15：約700年前(鎌倉時代)～現在の地形

鎌倉幕府滅亡後の名取の地は、陸奥国府に近いこともあり、南北両朝の勢力拡大を目指す武士が争う戦の場となりました。当時、南朝方であった伊達氏も名取郡へ出陣し、国府を守る北朝勢と合戦しています。その頃の記録の中に、高館山にある

中世

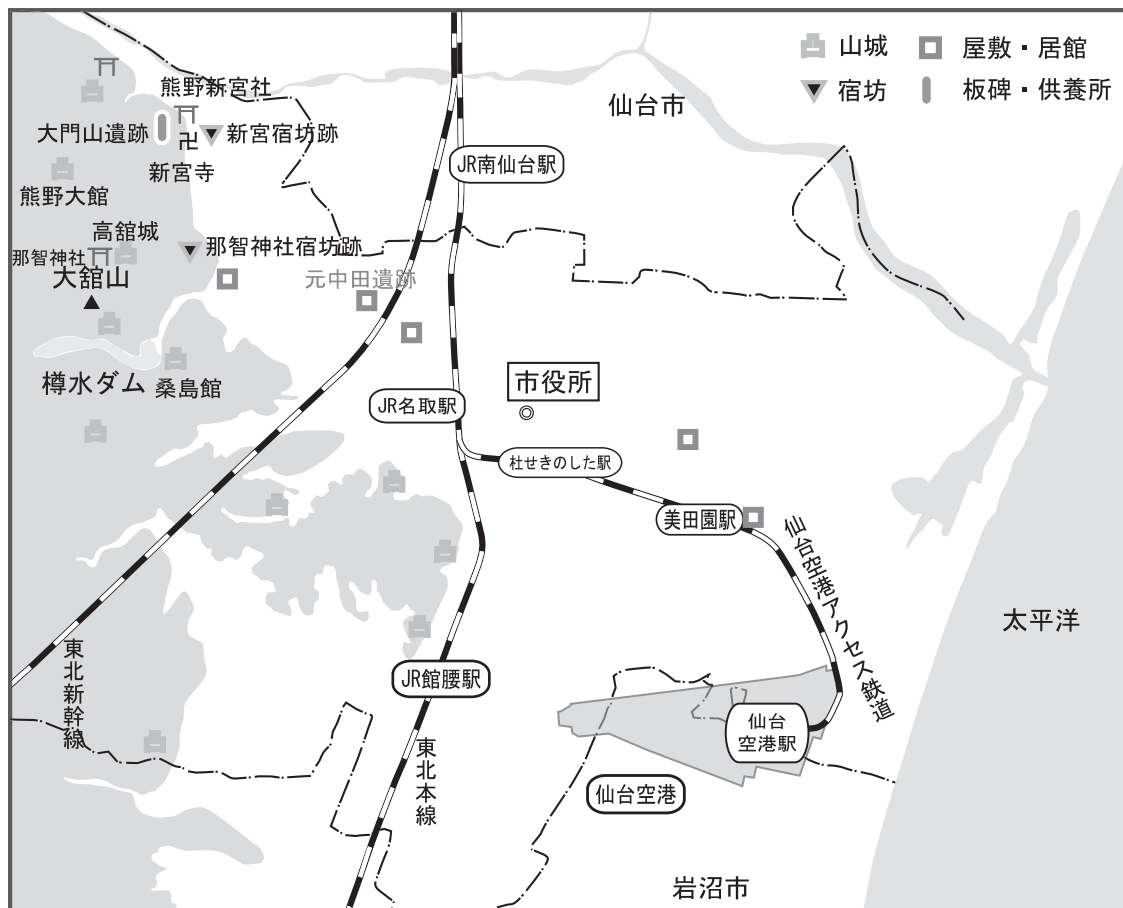


図16：中世の遺跡分布

はぐるじょう
羽黒城(高館城)の名も出てきます。また、この頃の名取郡は、現仙台市若林区付近から岩沼市北部にかけての範囲で、旧名取川を境に北側が「北方」、南側が「南方」の大きく2つの領域に分かれており、名取市域の多くは「南方」に属していました。

その後の名取郡は、概ね15世紀の初め頃までには、徐々に北に勢力を伸ばしてきた伊達氏の支配に組み込まれていったものと考えられています。

市内にはこの時代につくられた、山城や館・屋敷の跡が数多く残されています。山城には、高館城、熊野堂大館跡、桑島館跡等があり、特に、熊野堂大館跡は発掘調査の結果、熊野信仰にかかわった修験集団の根拠地としての性格も推測されています。この付近には熊野信仰の拠点であった熊野三社やこれに関連する那智神社宿坊跡、那智経塚群、大門山遺跡(板碑を用いた供養所)が存在し、懸仏、銅鏡、新宮寺一切経約3,000巻、熊野神社文書といった文化財の豊富さは特筆されます。

また、平野部を中心につくられた館・屋敷の跡は、柵や堀・土塁で囲まれ、中に母屋や井戸、馬屋、倉庫などを配置した地域の有力武士の居住施設で、戦いの機能もある程度備えていました。元中田遺跡は二重の堀(外堀：一辺150m、内堀：一辺80m)に囲まれた大規模な方形の居館跡で、内堀にかかる土橋も発見されています。

【近 世】

仙台藩政下の名取市域は、仙台藩領の南部に位置した名取郡南方の北側を占める23カ村で構成されていました。市域のほぼ中央には、南北に延びる江戸往来の奥州街道が整備され、増田には宿駅が設けられ、現代に引き継がれる街並みが形成されました。この他の主要な街道には、西部の丘陵沿いに東街道、海側の東部には浜街道があり、多くの人々や物資が往来しました。

また、仙台開府に伴い名取川・広瀬川舟運と閑上湊の整備が行われ、仙台北下と藩内各地とを水運で結ぶ仙台北下の外港としての位置を占めることになりました。その中で、内川(木曳堀。後の貞山運河)が名取川河口と阿武隈川河口を結ぶ運河として開削されたことにより、閑上湊はさらに重要性を増し、米や木材などの物資輸送の拠点港として繁栄しました。

名取郡における新田開発は17世紀後半(寛永～寛文年間)にその大半が行われ、それと同時に河川改修や用水路の開削なども大規模に実施されました。市内の主要用水堀は、名取六郷堰(熊野堂地区)を源とする上堀と下堀で、上堀は高館・愛島地区の丘陵沿いを南下し、下堀は増田・館腰地区の平野部を流下しています。これまで数度の改修工事を経て、現在でも名取耕地を潤す役割を果たしています。

市内には、この時代の神社、仏閣、民家・蔵の建造物の他、道標・庚申塔などの石造物、文書、神輿・錨・消火ポンプ等の民俗資料、神楽・舞楽関連の有形・無形の文化財も伝わっています。また、近年の石造物の調査では、140基以上の供養碑(庚申塔・馬頭観音・念仏塔・地藏・名号碑等)が確認されており、講などの民間信仰の一端も分ってきています。これらの石造物が造立され始めるのは檀家制度が成立する17世紀後半頃と一致しており、寺院側の要請もあったものと推定されます。

近世

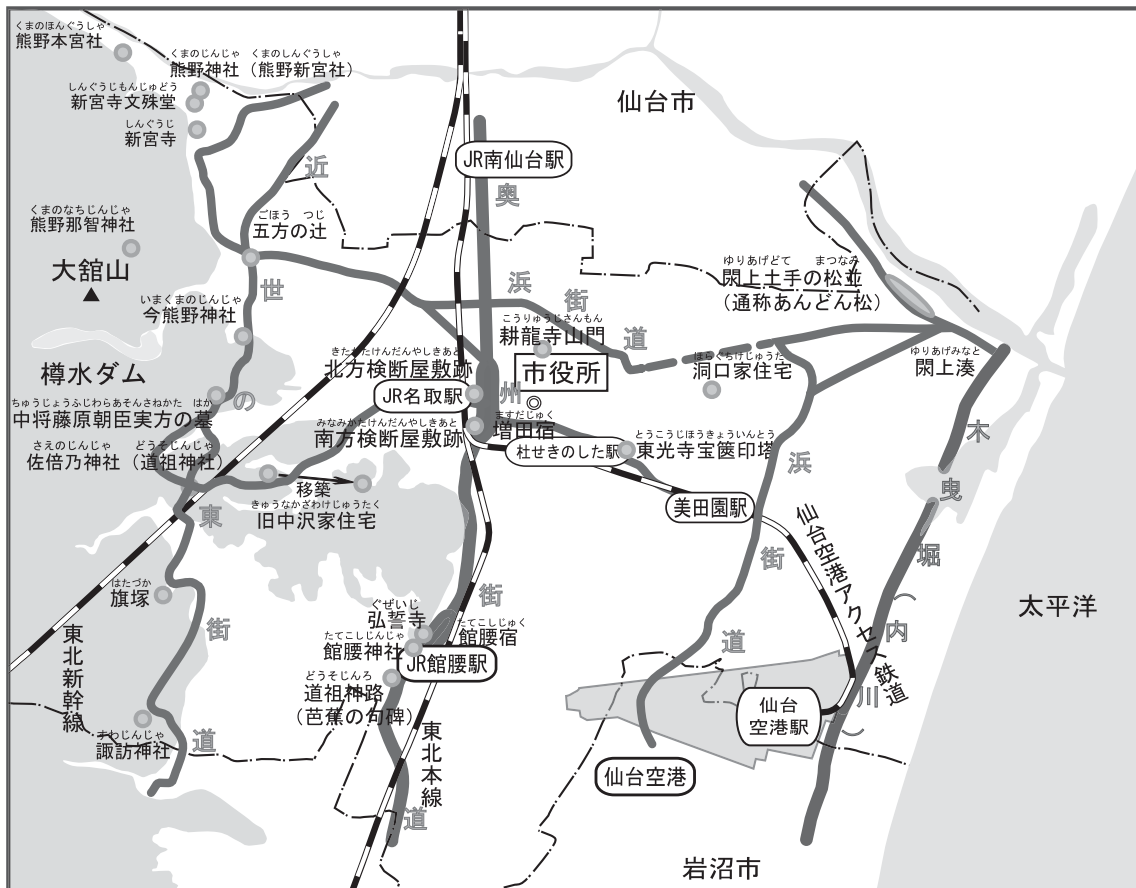


図17：近世の文化財の分布

【近・現代】

明治4年の廃藩置県により仙台藩は仙台県となり、翌年には宮城県と改称されました。同時に郡及び村の公称を廃して郡を大区、村を小区としましたが、明治22年に町村制が実施され、今の名取市内には、東多賀村、下増田村、増田村、高館村、愛島村、館腰村の6カ村ができました。明治29年、増田村が町制を施行して増田町となり、昭和3年に東多賀村が関上町と改称しました。昭和30年、増田町、関上町、下増田村、高館村、愛島村、館腰村の2町4村が合併し、名取町が生まれましたが、昭和33年には市制施行して名取市となりました。

名取市が誕生した昭和30年頃の人口は約33,000人で、その後も徐々に増加し、現在も人口の伸び率は鈍化しているものの基本的に増加傾向にある県内でも数少ない市です。人口の伸び率は、第二次ベビーブームの昭和45年頃を1つのピークに、その後、失われた20年の頃は大きく落ち込み、団塊ジュニア世代が壮年期を迎えた平成7年頃には再び増加するものの、それ以降は鈍化傾向にあります。

市制施行以後の産業の状況を平成17年の国勢調査から見ると、全体の就業者数は約32,300人で、人口の約47%が何らかの仕事に従事しています。第1次産業の従事者は、昭和35年頃には約8,300人でしたが、平成17年には約2,000人（約6%）と大きく減少しています。一方、建設・製造業などの第2次産業は平成17年時点で約3倍増の

約 7,300 人(約 23%)、同じく第 3 次産業では 6 倍近い約 23,000 人(71%)が従事しており、大きく増加が見られます。このうち第 1 次と第 3 次産業の比率が全国や県平均をやや上回っており、構成比率がやや高い特徴があります。昭和 35 年以前は、時代を遡るに従って第 1 次産業の従事者の割合が大きくなると考えられ、江戸時代頃から河口湊として発展した閑上地区の人々も、農を中心とした半農半漁の暮らしが基本となっていました。

明治 20 年には東北本線が塩釜まで開通し、翌年に増田駅が設置されます。大正 15 年、増田村と東多賀村とを結ぶ軽便鉄道「増東軌道」^{ぞうとうきどう}が開通しましたが、バスとの競合により 10 年余りで廃止されました。昭和 15 年、下増田村に日本陸軍の名取飛行場(後の仙台飛行場)が開港し、昭和 39 年に仙台空港と改称しています。同じ年には、国道 4 号仙台バイパスの市内区間が仙台圏物流の大動脈として開通しました。平成に入ると仙台東部道路の開通、仙台空港アクセス線の開業とインフラ整備がさらに加速し現在に至っています。

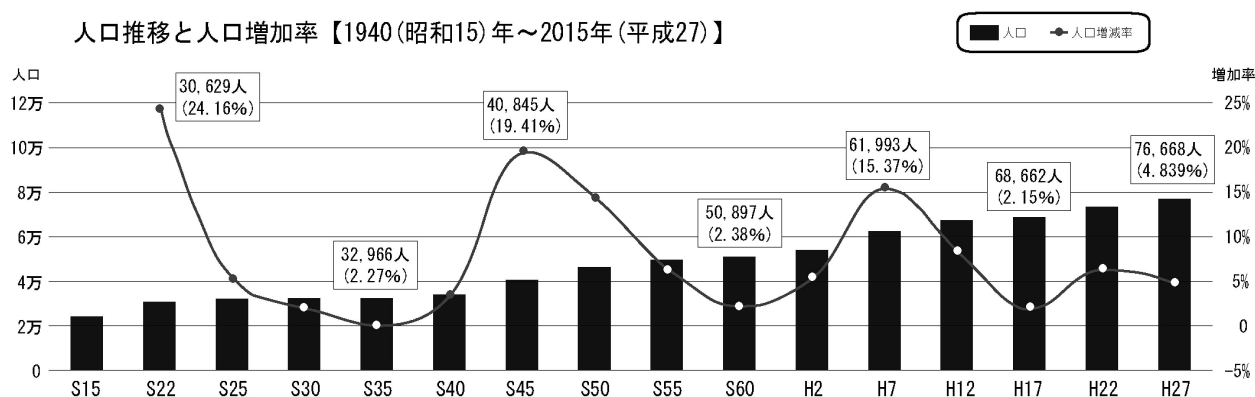


表 4 : 人口の推移と人口増加率

(15 歳以上 / 各年 10 月 1 日 資料 : 国勢調査)

	昭和 35	昭和 40	昭和 45	昭和 50	昭和 55	昭和 60	平成 2	平成 7	平成 12	平成 17
総数	14,680	15,569	20,035	21,945	23,452	24,291	26,679	31,210	32,618	32,321
第 1 次産業	8,321	6,806	6,150	4,749	3,863	3,490	3,026	2,543	2,053	2,027
第 2 次産業	2,399	3,408	5,047	5,862	6,365	6,733	7,789	8,561	8,444	7,351
第 3 次産業	3,960	5,350	8,812	11,285	13,197	14,061	15,845	20,071	21,973	22,867

表 5 : 産業従事者の推移

②名取市の指定・登録文化財

歴史文化資源のうち、歴史・芸術・学術上から特に重要なものは、国・県・市の指定文化財に指定されています。現在、市外にあるもの1件も含めた名取市関係の指定文化財の総数は、平成30年3月現在で39件あり、国指定7件、宮城県指定5件、市指定27件の内訳になっています。また、その指定文化財を補完する登録文化財の総数は18件です(表6 名取市の指定・登録文化財一覧)。これらは、市の歴史文化を語る上で欠くことが出来ないもので、今後も重点的に保存・活用すべきものです。

これらを文化財の種類別で見ると、無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群保存地区、保存技術には指定や登録文化財がなく、名勝や天然記念物の指定・登録件数も少ない状況にあります。また、総数57件ある指定・登録文化財の内容を見てみると、雷神山古墳をはじめとする古墳関係のものが8件(約14%)、熊野信仰に関わるものが21件(約38%)で大きな割合を占めており、分布も古墳の多い丘陵上や熊野三社のある高館地区周辺に多く分布しています。

【名取市の指定・登録文化財一覧】

種 別		名 称	場 所	所 有 者 (管理者)	指定・登録日(追加)	
☆ 国指定 (6件) ☆						
有 文 化 財	建 造 物	洞口家住宅	大曲字中小路	個人	昭 46.12.28 (昭 60.5.18、平 24.7.9)	
		旧中沢家住宅	手倉田字山	名取市	昭 49.5.21	
	美 術 工 芸 品	工 芸 品 熊野那智神社懸仏・銅鏡 (41面)	高館吉田字館山	熊野那智神社	昭 49.6.8	
		典 籍 新宮寺一切経 (2,568巻)	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	昭 62.6.6	
記 念 物	史 跡 古 墳	雷神山古墳	植松字山、愛島小豆島字方平山	名取市	昭 31.12.28 (昭 43.12.5)	
		飯野坂古墳群	飯野坂5丁目、名取が丘1丁目	名取市	昭 53.3.16	
☆ 県指定 (5件) ☆						
有 文 化 財	建 造 物	熊野新宮社本殿	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	昭 60.5.24	
		美 術 工 芸 品	工 芸 品 銅造観音像懸仏 (122面)	高館吉田字館山	熊野那智神社	昭 41.3.31
民 俗 文 化 財	無 形 民 俗 文 化 財	民 俗 芸 能	熊野堂神楽	高館熊野堂字岩口上	熊野堂神楽保存会	昭 61.11.28
			熊野堂舞楽	高館熊野堂字岩口上	熊野堂舞楽保存会	平 15.1.31
			道祖神神楽	愛島笠島字西台	道祖神神楽保存会	昭 61.11.28
☆ 市指定 (27件) ☆						
有 文 化 財	建 造 物	耕龍寺山門	増田字北谷	耕龍寺	平 2.3.31	
		東光寺石造宝篋印塔	下増田字丁地	東光寺	平 2.3.31	
	美 術 工 芸 品	彫 刻 典 籍	新宮寺文殊菩薩像	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	平 2.3.31
			新宮寺一切経 (411巻)	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	昭 47.12.15
		考 古 資 料	十三塚遺跡出土弥生土器	増田字柳田	名取市	平 2.3.31
			雷神山古墳出土遺物 (12点)	増田字柳田	名取市	平 2.3.31
			名取熊野堂大館跡出土遺物 (7点)	増田字柳田	名取市	平 2.3.31
		古 文 書	熊野神社文書 (65点)	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 2.3.31
			歴 史 資 料	熊野堂村御検地帳 (7冊)	増田字柳田	名取市
		吉田村御検地帳 (9冊)		増田字柳田	名取市	平 2.3.31

			上増田村御検地帳 (5 冊)	増田字柳田	名取市	平 2. 3. 31	
			田高村御検地帳 (4 冊)	増田字柳田	名取市	平 2. 3. 31	
民 文 化 財	有 形 民 俗 文 化 財		釜神様	増田字柳田	名取市	平 2. 3. 31	
			熊野堂十二神鹿踊	高館熊野堂字五反田	熊野堂十二神鹿踊保存会	昭 47.12.15	
	無 形 民 俗 文 化 財	民 俗 芸 能	花町神楽	館腰地域	花町神楽保存会	昭 47.12.15	
			今熊野神社付属神楽	高館川上字北台	今熊野神社付属神楽保存会	平 2. 3. 31	
民 文 化 財	無 形 民 俗 文 化 財	民 俗 芸 能	閑上大漁曳込み踊	閑上地域	閑上大漁曳込み踊保存会	昭 47.12.15	
			下増田麦搗き踊	下増田地域	下増田麦搗き踊保存会	昭 47.12.15	
			手倉田枅取り舞	手倉田地域	手倉田枅取り舞保存会	平 19. 1. 31	
記 念 物	史 跡	横 穴 墓	熊野堂横穴墓群	高館熊野堂字大門山	民有地	昭 41. 3. 31	
		集 落 跡	十三塚遺跡	手倉田字山外	名取市	平 2. 3. 31	
		供 養 所 跡	大門山遺跡	高館熊野堂字大門山	民有地、一部名取市	平 2. 3. 31	
		古 墳	高館山古墳	高館吉田字西真坂	名取市	平 2. 3. 31	
			名取大塚山古墳	愛島笠島字北台	名取市、一部民有地	平 2. 3. 31	
		城 館 跡	高館城跡	高館吉田字西真坂	民有地、一部名取市	平 2. 3. 31	
	寺 院 跡	笠島廃寺跡	愛島笠島字西台	民有地	昭 41. 3. 31		
天 然 記 念 物	衣笠の松	増田 2 丁目	名取市	昭 41. 3. 31			
☆ 市登録 (18 件) ☆							
有 文 化 財	形 財	美術工芸品	石 造 物	五方の辻碑	高館川上字東北畑地内	名取市	平 19. 1. 31
				道祖神路の道標	植松字西向	名取市	平 19. 1. 31
				伊達持宗公夫妻供養五輪塔	増田字北谷	耕龍寺	平 19. 1. 31
				元徳の板碑	上余田字大徳	民有地	平 19. 1. 31
				昭和三陸津波の碑 (2 基)	閑上四丁目、閑上字川前	名取市	平 26.10.10
			彫 刻	神楽面	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 19. 1. 31
				舞楽面	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 19. 1. 31
				木造狛犬	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 19. 1. 31
			工 芸 品	宮太鼓	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 19. 1. 31
				経櫃	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	平 19. 1. 31
				経篋	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	平 19. 1. 31
				経机	高館熊野堂字岩口中	新宮寺	平 19. 1. 31
			考 古 資 料	鈴釧	増田字柳田	名取市	平 19. 1. 31
民 文 化 財	有 形 民 俗 文 化 財		錨	高館熊野堂字岩口上	熊野神社	平 19. 1. 31	
			木製半唧筒(消火)ポンプ	大曲字中小路	個人	平 19. 1. 31	
記 念 物	史 跡		野田山遺跡	愛島塩手字野田	宮城県	平 19. 1. 31	
			毘沙門堂古墳	杉ヶ袋字前沖	本寿院	平 19. 1. 31	
	天 然 記 念 物	閑上土手の松並	閑上字柳原上、柳原中他	東北地方整備局	平 19. 1. 31		

※市外所在の指定文化財

種 別	名 称	所 在 地 (伝承地)	所 有 者 (管理者)	指 定・登 録 日 (追加)	
☆ 国指定 (1 件) ☆					
有形文化財	美術工芸品 考 古 資 料	埴輪甲 (員数 2) 埴輪家残闕 埴輪円筒	仙台市青葉区片平	国立大学法人東北大学	昭 34. 6. 27

表 6 : 名取市の指定・登録文化財一覧

【指定・登録文化財の種別】 ※指定件数内には、市外所在の分1件を含む。

指定別	区分	有形文化財		無形文化財			民俗文 化財		記念物			文化的 景観	伝統的 建造物 群保存 地区	保存 技術	合計	
		建造物		美術工 芸品	芸能	工芸 技術	その 他	有 形	無 形	史 跡	名 勝					天然 記念 物
		件 数	棟 数													
国	指定	2	2	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
	登録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	指定	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	5
	登録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名取市	指定	2	1	10	0	0	0	1	6	7	0	1	0	0	0	27
	登録	0	0	13	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	18
総数	指定	5	4	14	0	0	0	1	9	9	0	1	0	0	0	39
	登録	0	0	14	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	18

表7：指定・登録文化財の種別

【指定・登録文化財の分布】

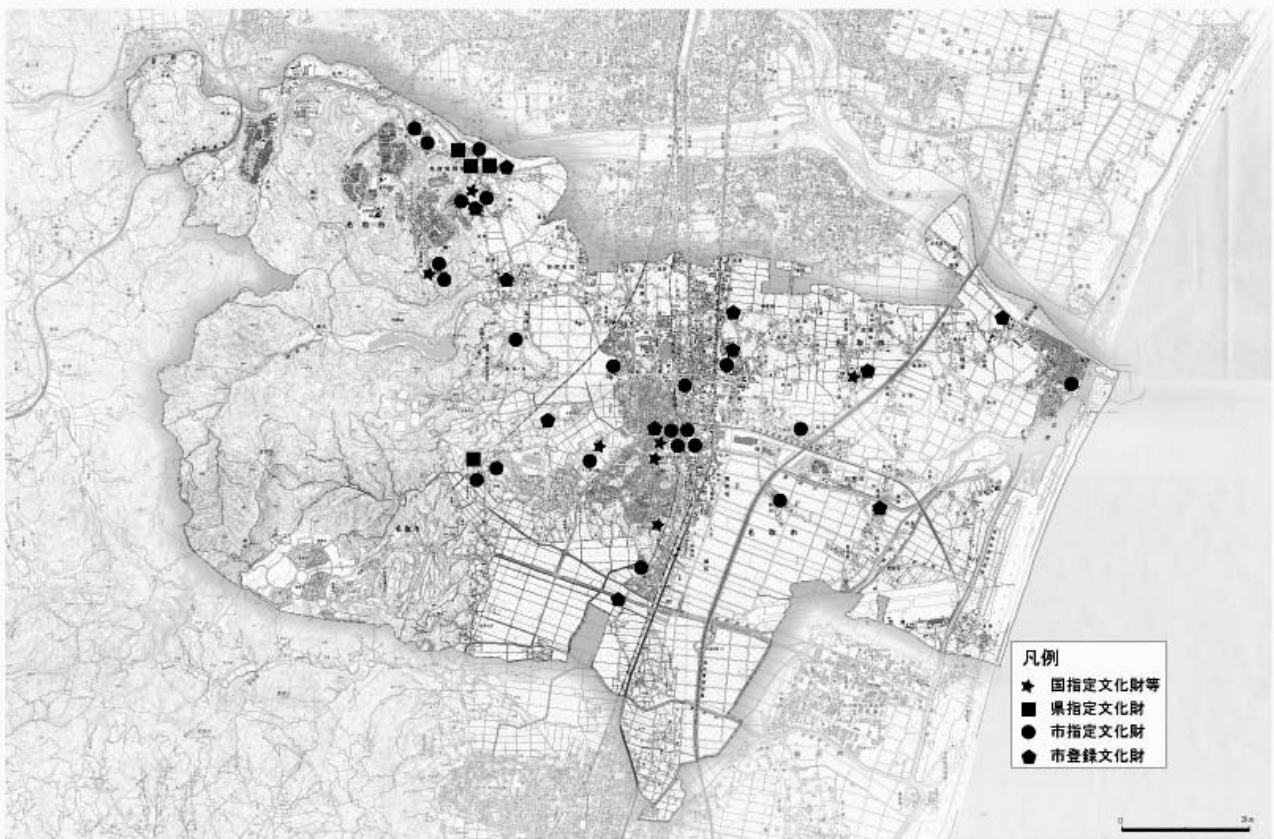


図18：指定・登録文化財の分布

2. 歴史文化の特性の把握調査

(1) 特性把握の考え方

歴史文化の特性・魅力の把握は、指定・未指定にかかわらず、のこされている歴史文化資源そのものの把握や、個別の歴史的な価値や特性の把握、背景にある自然環境、その時々^{しっかい}の社会的環境の状況や変化・影響なども併せて検討する必要があります。対象範囲も広いことから、既存資料からの検討や整理を行うとともに、悉皆的な調査実施や市民意識の把握が必要となります。また、ここで把握する特性は、個別的なものではなく、市全体としての特性の把握を指します。

(2) これまでの文化財調査

名取市が保管している文化財関連の既存資料には、指定文化財や登録文化財に係るものをはじめ、遺跡調査の出土品や調査記録、民俗資料や考古資料をはじめとする寄贈資料、市の歴史文化に関わる資料や写真資料、民俗芸能や石造物（中世の供養碑：板碑）の調査資料などがあります。

その内、市担当課により調査が行われたものは限られ、分野にも偏りも見られますが、その内容や成果をまとめた調査報告書には、以下のもの（表8・9参照）があります。また、調査報告書としてまとめられていないものの、「近代文化遺産総合調査」、「民俗文化財調査（民俗技術）」、「指定・登録文化財候補調査」、「近代和風建築総合調査」、「巨木・巨樹調査」の基礎資料や、平成5年度に市の文化資源等の現況をまとめた「名取市における文化資源等に関する現況調査報告書」、平成18年度に「みんなで見つけるわがまち自慢」の趣旨のもと選定された「なとり100選」中には、景観や生業なども含め多くの歴史文化資源が記されています。

この他、これまでに地域の団体や個人などがそれぞれで、地域の歴史や文化資源について紹介し、内容をまとめた資料なども貴重な手掛りになります。

番号	書籍名	備考
第1集	宮下遺跡	埋蔵文化財
第2集	十三塚遺跡(遺構確認調査)	埋蔵文化財
第3集	史跡雷神山古墳(周溝確認調査)	埋蔵文化財
第4集	十三塚遺跡	埋蔵文化財
第5集	史跡雷神山古墳	埋蔵文化財
第6集	十三塚遺跡	埋蔵文化財
第7集	文化財調査年報1	埋蔵文化財
第8集	十三塚遺跡	埋蔵文化財
第9集	名取市新宮寺一切経調査報告書	有形文化財
第10集	文化財調査年報2	埋蔵文化財ほか
第11集	清水遺跡(神明団地区)	埋蔵文化財
第12集	名取市の文化財Ⅰ(埋蔵文化財)	埋蔵文化財
第13集	十三塚遺跡	埋蔵文化財
第14集	名取市の民俗芸能	無形民俗文化財
第15集	愛島東部丘陵遺跡群Ⅰ	埋蔵文化財
第16集	愛島東部丘陵遺跡群Ⅱ	埋蔵文化財

番号	書籍名	備考
第17集	史跡飯野坂古墳群	埋蔵文化財
第18集	愛島東部丘陵遺跡群Ⅲ	埋蔵文化財
第19集	愛島東部丘陵遺跡群Ⅳ	埋蔵文化財
第20集	名取市金石史料(板碑編)	有形文化財
第21集	史跡雷神山古墳保存修理整備報告書	埋蔵文化財
(第19集)	史跡雷神山古墳保存修理整備報告書	埋蔵文化財
第22集	大門山遺跡発掘調査報告書	埋蔵・有形文化財
第23集	名取市の無形民俗文化財(郷土芸能編)、増刷改訂(1992・1998)	無形民俗文化財
第24集	名取市遺跡地名表・地図	埋蔵文化財
第25集	川上遺跡	埋蔵文化財
第26集	愛島東部丘陵遺跡群・賽ノ窪古墳群の測量調査Ⅴ	埋蔵文化財
第27集	仙台東道路遺跡調査概報Ⅰ	埋蔵文化財
第28集	名取市の絵馬調査報告書	有形文化財
第29集	仙台東道路遺跡調査概報Ⅱ	埋蔵文化財
第30集	名取市熊野三山周辺遺跡調査報告書Ⅰ ー高館山地区ー	埋蔵・有形文化財
第31集	仙台東道路遺跡調査概報Ⅲ	埋蔵文化財
第32集	名取市熊野三山周辺遺跡群発掘事前総合調査	埋蔵文化財
第33集	仙台東部道路関係遺跡調査報告書	埋蔵文化財
第34集	名取市熊野三山周辺遺跡調査報告書 ー新宮社宿坊跡ー	埋蔵文化財
第35集	名取市熊野三山周辺遺跡調査報告書 ー熊野堂横穴墓群ー	埋蔵文化財
第36集	年報 ー平成6年度ー	埋蔵文化財ほか
第37集	原遺跡発掘調査報告書(第1・6・7次調査)	埋蔵文化財
第38集	原遺跡(県道名取村田線改良工事関係)	埋蔵文化財
第39集	泉遺跡(県警察学校用地関係)	埋蔵文化財
第40集	元中田遺跡(宅地造成関係)	埋蔵文化財
第41集	原遺跡(東京インテリア家具仙台本店用地関係)	埋蔵文化財
第42集	下余田遺跡(JA増田農協倉庫用地関係)	埋蔵文化財
第43集	原遺跡(仙台観光関係)	埋蔵文化財
第44集	原遺跡(カインズホーム関係)	埋蔵文化財
第45集	臨空都市整備下増田地区遺跡詳細測量調査報告書	埋蔵文化財
第46集	原遺跡(ジャスト関係)	埋蔵文化財
第47集	野田山遺跡(宮城県立がんセンター緩和ケア病棟建設関係)	埋蔵文化財
第48集	原遺跡(ダイエー関係)	埋蔵文化財
第49集	原遺跡(極楽湯関係)	埋蔵文化財
第50集	平成13年度 文化財年報	埋蔵文化財ほか
第51集	平成14年度 文化財年報	埋蔵文化財ほか
第52集	名取市歴史資料調査報告書(古文書編Ⅰ)	有形文化財
第53集	熊野神社本殿保存修理報告書	建造物
第54集	上余田遺跡(宅地造成関係)	埋蔵文化財
第55集	十三塚遺跡(老人福祉施設建設関係)	埋蔵文化財
第56集	泉・前野田東・北台遺跡の発掘調査	埋蔵文化財
第57集	鶴巻前・本村遺跡(関下土地区画整理事業関係)	埋蔵文化財
第58集	文化財保存管理活用関連調査整備報告書	指定・登録、史跡・記念物・建造物
第59集	泉・前野田東・北台遺跡(愛島東部第二土地区画整理事業関係)	埋蔵文化財
第60集	町裏遺跡・鶴巻前遺跡・下増田飯塚古墳群(臨空関係)	埋蔵文化財
第61集	名取市内遺跡発掘調査報告書(平成23年度)	埋蔵文化財
第62集	名取市内遺跡発掘調査報告書(平成24年度)	埋蔵文化財
第63集	名取市内遺跡発掘調査報告書(平成25年度)	埋蔵文化財
第64集	名取市内遺跡発掘調査報告書(平成26年度)	埋蔵文化財
第65集	震災復興事業関連発掘調査報告書	埋蔵文化財
第66集	賽ノ窪古墳群(東北電力施設建設関連)	埋蔵文化財
第67集	辻遺跡・下余田遺跡・本村遺跡他(農地復興事業関連)	埋蔵文化財
第68集	名取市内遺跡発掘調査報告書(平成27年度)	埋蔵文化財

表8：文化財調査一覧①

番号	発行年月	文献名	報告書名
1	1924.3	丹取軍団遺跡	宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 2
2	1938.3	宮城県内の古墳及び横穴	宮城県史跡名勝天然記念物調査報告 3
3	1972	東北新幹線関係遺蹟分布調査報告	宮城県文化財調査報告書第 2 7 集
4	1973.3	金剛寺貝塚今熊野遺跡調査概報	宮城県文化財調査報告書第 3 3 集
5	1974.3	東北新幹線関係遺蹟調査報告書 I (西野田遺跡)	宮城県文化財調査報告書第 3 5 集
6	1975.3	宮城県文化財発掘調査略報 (昭和 50 年度、清水遺跡)	宮城県文化財調査報告書第 4 2 集
7	1977.3	宮城県文化財発掘調査略報 (昭和 51 年度分)	宮城県文化財調査報告書第 4 8 集
8	1978.3	宮城県文化財発掘調査略報 (昭和 52 年度分)	宮城県文化財調査報告書第 5 3 集
9	1979.3	宮城県文化財発掘調査略報 (昭和 53 年度分)	宮城県文化財調査報告書第 5 7 集
10	1980.3	金剛寺貝塚、宇賀崎貝塚、宇賀崎 1 号墳他	宮城県文化財調査報告書第 6 7 集
11	1975	清水遺跡	宮城県文化財調査報告書第 7 7 集
12	1985	今熊野遺跡 -古代編-	宮城県文化財調査報告書第 1 0 4 集
13	1986	今熊野遺跡 II -縄文・弥生編-	宮城県文化財調査報告書第 1 1 4 集
14	1992	野田山遺跡	宮城県文化財調査報告書第 1 4 5 集
15	1992	下草古城跡ほか (山の神遺跡)	宮城県文化財調査報告書第 1 4 6 集

表 9 : 文化財調査一覧②

(3) 文化財調査の課題

地域の歴史文化の特性や魅力の把握調査の実施にあたって想定された、課題や問題を大きく以下のとおり整理しました。

①未調査の歴史文化資源の実態の把握

未調査の歴史文化資源の多くが未指定のものですが、その実態については殆ど把握されていないのが実情です。また、指定や登録文化財などの既に把握されている物件に対して、対象の数の多さや多様さなども想定されます。こうした実情から、管理状況、履歴、保存状態などの内容の把握も必要ではあるものの、まずは、「どこに・どれだけ・どのようなものが」有るのか、それとも無いのかについて把握することを最優先する必要があります。

②調査の対象と体制

一定の内容が把握された既存の調査資料は、(2) で記したとおり、埋蔵文化財を中心としたもので、その他、民俗芸能や絵馬、石造物 (板碑) など、ごく限られた分野になっています。実際に市内に残されている可能性があるものの中で、文化財の種別から見ると、考古資料を除く有形文化財、民俗芸能を除く民俗文化財、記念物などについての悉皆的な把握調査が必要と想定されます。

また、具体的な調査実施にあたっては、市民や各種団体などの積極的な参加が望まれますが、実際に調査実施が可能な団体や、実施できる分野も限られており、そうした団体との連携も十分に図られていない点も課題になっています。

(凡 例)	(有形文化財 建造物)	※考古資料除 有形文化財 (美術工芸品)	無形文化財	民俗文化財	(遺 跡) 記念物	(名 勝) 記念物	天然記念物	文化的景観	伝統的 建造物群	文化財 保存技術	埋蔵文化財
○:調査資料多 △:調査不足 ×:未調査											
先史	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	○
古代	×	△	×	×	△	×	×	×	×	×	○
中世	×	△	×	×	△	×	×	×	×	×	○
近世	×	△	×	△	△	×	△	×	×	×	△
近代	×	△	×	△	△	×	△	×	×	×	△

表 10：文化財の種別毎の調査状況

(4) 特性把握のための調査

(1)～(3)で記した特性把握の考え方や調査資料の状況・課題を踏まえ、平成27～28年度の2ヶ年で、過去にまとまった調査を実施した事がないものや、他の文化財と多くの関わりを持つものを中心とした歴史文化資源調査を行いました。具体的には下の①調査方針や②調査方法に沿って、名取市郷土史研究会、なとり歴史的建造物研究会、名取古文書学習会、名取昔ばなし語りの会の4団体の協力を得ながら、「なとり」に関わりのある歴史資料や近世以降の石造物、歴史的建造物や古文書や記録類、民俗・風習などの基礎的な調査を実施したほか、補足調査として植生の基礎調査を実施しました。

①調査方針

- A：市内全域に所在する昭和20年以前の歴史文化資源を中心に、総合的に把握する悉皆調査を実施する。
- B：地域住民や歴史・文化的活動を行っている民間団体等との協働で実施する。
- C：歴史文化資源と自然・地理的な環境との密接な関係や、調査効率、今後の活用を考慮し、市政施行前の旧町村6地区（高館・愛島・館腰・増田・下増田・閑上）を基本単位として調査を行う。
- D：調査対象の量が多く多岐にわたると想定されることから、市内のどこに・どれだけ・どのような歴史文化資源があるのかなど基礎的な情報を把握する事を最優先とする。
- E：平成27～28年の2ヶ年で調査を行ない、1年目は基礎的な情報のための概要調査を実施し、2年目以降に概要調査を踏まえた総合調査や補足調査を実施する。
- F：市民意識の把握については、既存の「なとり100選」で選定された歴史文化資源などを反映させることや、調査内容や成果などの公開を目的とした展示会におけるアンケートなどにより把握する。

②調査方法

名取市郷土史研究会・なとり歴史的建造物研究会・名取古文書学習会・名取昔ばなし語りの会の4つの協力団体との調査実施にあたり、それぞれの主な調査対象や実施方法について、以下を基本としました。

【名取市郷土史研究会】

A：実施対象：歴史資料調査

市内に所在する近代以前の伝承地、名勝地、旧跡、石造物(板碑、^{ほこら}祠、石仏、記念碑、顕彰碑、慰霊碑)や、その他の構造物(建物を除く)、機械、道具等。

B：実施内容：歴史や文化財に詳しい方々の情報を基に、対象物の内容・特徴・年代等について調査を行う。また、調査の記録類は内容を整理検討のうえ個々の調査台帳を作成する。

【なとり歴史的建造物研究会】

A：実施対象：歴史的建造物調査

市内に所在する昭和20年以前の、住宅、店舗、工場、神社、仏閣、お堂、橋、塔、その他産業や生活に伴う施設等。

B：実施内容：建物等の構造、特徴、年代について調査を行う。また、調査の記録類は内容を整理検討のうえ、個々の調査台帳を作成する。

【名取古文書学習会】

A：実施対象：古文書等調査

名取市に関係する近代以前の文書、書籍、書、絵画等。

B：実施内容：各地域の歴史や文書等に詳しい方々の情報を基に、文書類の所有者、種類、内容、年代について調査する。また、これまでに確認され解読が必要な文書類について解読作業を行う。また、調査の記録類は内容を整理検討のうえ、個々の調査台帳を作成する。

【名取昔ばなし語りの会】

A：実施対象：民俗・風習等調査

市内に伝わる風習、民間信仰、民俗芸能、唄、民話等。

B：実施内容：各地区の公民館や自治会、学校機関等で、地域の歴史や伝統・風俗等に詳しい方々から聞き取り調査を行う。また、調査の記録類は内容を整理検討し、個々の調査台帳を作成する。

③調査成果と課題

①・②の方針・方法に基づいて、平成27年度・28年度に実際に実施した資源調査の概要は下の表のとおりです。

調査団体	平成27年度の調査内容	平成28年度の調査内容
名取市郷土史研究会	山沿い・平野・海岸の地区毎に近代以前の伝承・名勝地・旧跡、石造物、建物以外の構造物や機械、道具などを含めた、関連のある歴史資料を53群抽出。	東街道や奥州街道などの旧街道沿いや各地の社寺にある石造物（主に近世以降）を中心に、約300基（信仰碑、供養碑、道標など）の現地調査と写真撮影、調査票作成。
なとり歴史的建造物研究会	旧町村6地区ごとに昭和20年以前の住宅、店舗、工場、神社、仏閣、お堂、橋など、500件を超える現地調査と写真撮影や台帳作成。	前年度の調査結果から特徴的な民家や屋敷構成が残るものと、旧街道（東街道・奥州街道）の街並みや農村風景の景観を形成している土蔵・板倉などの実測図や写真撮影。

<p>名取古文書 学習会</p>	<p>近代以前の書籍、文書、新聞記事、写真、 絵画や絵図など 2460 項目の調査と名称 や所有者などをまとめたリスト作成。</p>	<p>前年度の調査成果をもとに熊野信仰関連や 旧街道に関わるもの、近世以降の名取の基 礎的な資料を抽出して実物などの記録写真 撮影と 480 件の資料複写。湊神社文書の基 礎データ作成と 357 件の記録写真撮影。</p>
<p>名取昔ばなし 語りの会</p>	<p>市内に伝わる民話や物語などのとりま とめ。増田・館腰地区を中心とした伝 承・伝説や風習（年中行事）の現地調査 や聞き取り調査。</p>	<p>前年度の調査結果等を踏まえ、熊野信仰や お浜降りの神事等について聞き取り調査。 この他、生業（紙漉きなど）や、前年度調 査の年中行事の追加調査、童唄などの調査。</p>

表 11：資源調査の内容

名取市郷土史研究会による平成 27 年度の歴史資料調査では、53 群もの相互に関連する文化財の小群が抽出されましたが、それらも歴史文化資源の背景にある自然環境や歴史的経過などから、おのずと丘陵部、平野部、海岸部を単位として把握されたものです。そのことは周辺環境と歴史文化資源の強い結び付きを示すものであり、山・平野・海それぞれの地区の特性により育まれてきた名取市の歴史文化の特性を物語るものです。また、抽出された小群の中でも 20 件が熊野三社関係や古墳関係のものであり、やはり大きな位置を占めています。28 年度に実施した近世以降の主要な石造物調査では、350 基に及ぶ地域の多様な信仰を示す石造物の情報が把握されています。中世以前では、丘陵部、とりわけ熊野三社付近での活発な造立が認められており、近世以降になると市内全体へと分布が拡大します。地域的には増田・館腰地区の奥州街道沿いや社寺の境内を中心に分布します。こうした傾向は、なとり歴史的建造物研究会が調査を行った歴史的建造物の蔵の分布も似ています。市内の歴史的な建造物で最も多いのは住宅およびその付属屋で、その多くは高館・愛島地区に残されており地域性が見られます。

名取古文書学習会の実施した古文書等の調査では、中世以前のものでは熊野三社関連の文書・典籍・てんせき きんせきぶん金石文が中心ですが、近世後半以降を中心に 2,000 件を超える古文書等をはじめとする資料が把握されています。また、東日本大震災から奇跡的に難を逃れた貴重な閑上地区の資料として、湊神社文書の基礎調査も実施することが出来ました。また、名取昔ばなし語りの会による民俗・風習調査では 58 件の昔話の把握調査や、年中行事の調査などを実施しました。昔話では、高館・愛島の丘陵部と、閑上地区に多くが伝えられており、山と海での特色ある暮らしとの関わりの中で伝えられてきたものと思われます。また、山と海を結ぶ熊野信仰に関わる行事として、お浜降りの神事についての聞き取り調査なども行いました。

今回、上記の 4 団体との協働により実施した資源調査では、まずは地域の歴史文化資源の有無や数量や所在の把握を主眼に、これまで未調査であった多数の歴史文化資源の把握を進める基礎資料が出来た点で大きな成果となりました。

また、資源調査の実施から見えてきた今後取り組んで行くべき調査の課題には、以下のようなものがあります。

- A：未調査のものや分野が多く残されています。特に民俗・風習や、動植物などの分野、有形文化財では、仏像や美術関係の資料などがあります。
- B：把握内容の充実を図る必要があります。今回の調査では、内容や個々の文化財の周辺環境についての把握が十分に出来ていません。今後、計画的・継続的な調査の実施が望まれます。
- C：調査資料の公開・活用。今回の調査成果や公開可能な内容を整理した上で、調査成果や資料の公開を行い、周知や活用機会の拡充を図る必要があります。
- D：専門家や関係機関などの協力を得ながら、調査で把握された歴史文化資源の個々の歴史的な価値や魅力、他のものとの関連性、群としての価値や魅力の位置付けを行う必要があります。

なお、以下に調査団体別の調査概要をまとめました。

【名取市郷土史研究会】歴史資料調査

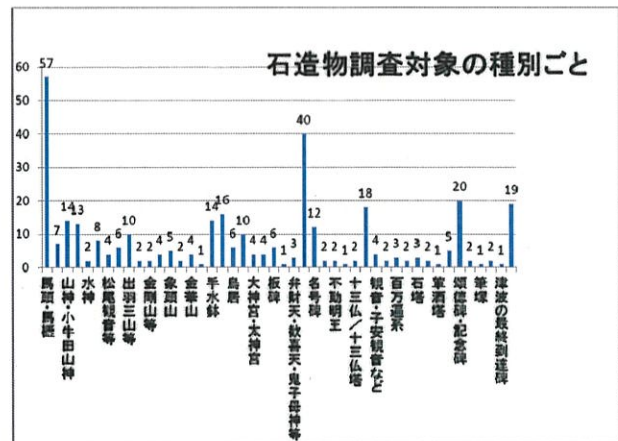
近代以前の伝承・名勝地・旧跡、石造物、建物を除くその他の構造物、機械、道具等を調査対象としました。

平成27年度には、①山手丘陵部（愛島・高館地区）、②平野部（館腰・増田地）③海岸部（閑上・下増田地区）の地区毎に、相互に関連のある文化財群53群を抽出しました。

①地区（文化遺産：21群と、それを構成する文化財を抽出）

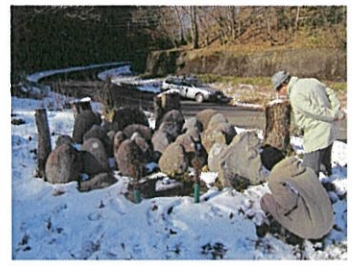
名取市郷土史研究会

丘 岡 部【高 館 地 区】	文化遺産の名称	所在地	調査する文化財等	調査対象
1	高館郷土史調査区 山(閑野宮)	高館郷土史調査区 字閑上・中上・成島	高館郷土史調査区 (閑野宮)・高館(閑野宮) 閑野宮、高館(閑野宮) 閑野宮、高館(閑野宮) 閑野宮、高館(閑野宮)	高館郷土史調査区(群)
2	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区(群)
3	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区(群)
4	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区(群)
5	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区(群)
6	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区 高館郷土史調査区 高館郷土史調査区	高館郷土史調査区(群)



平成27年度 文化財群 調査票

調査票のとりまとめデータからグラフを作成



石造物の調査票と撮影した写真

対象内で最古年号の石碑(元禄9)

現地調査風景

図 19：名取市郷土史研究会の資源調査

②地区（文化遺産：12群と、それを構成する文化財を抽出）

③地区（文化遺産：20群と、それを構成する文化財を抽出）

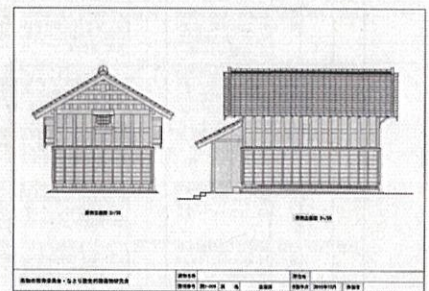
平成28年度には、平成27年度の調査結果や、想定される関連文化財群との関わりや、^{あづまかいどう}東街道、奥州街道などの旧街道沿いや各地の社寺にある、主な近世以降の石造物約300基（信仰碑、顕彰碑・記念碑・供養碑（墓石は除く）、道標・その他石造物）の調査を行い、写真撮影、一覧表、調査票を作成しました。調査にあたっては、事前に関連文献資料や聞き取りなどの情報収集を行い調査対象の抽出を行いました。

【なとり歴史的建造物研究会】歴史的建造物調査

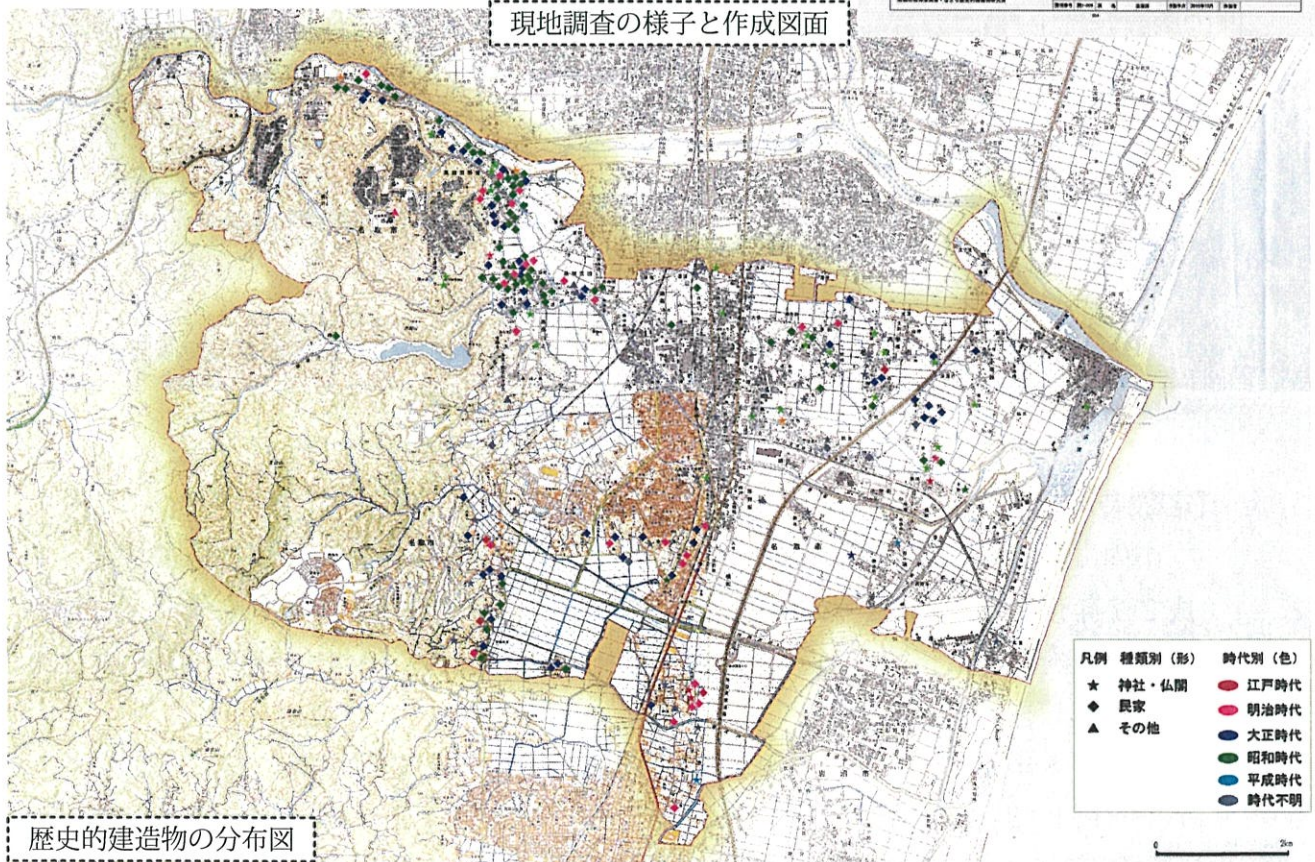
昭和20年以前の住宅、店舗・工場、神社・仏閣・お堂、橋などを調査対象としました。

平成27年度には、旧町村6地区毎に対象の歴史的な建物など500件以上を対象とする現地調査を実施し、写真撮影や台帳作成を行いました。

平成28年度には、その中から特に特徴的な民家や屋敷構成が残るもの、旧街道



現地調査の様子と作成図面



歴史的建造物の分布図

図 20：なとり歴史的建造物研究会の資源調査

(東街道・奥州街道)の景観を形成するもの、特徴的な農村景観や生活景観を形成するものとして、土蔵・板倉や各地区の特徴的な建造物40件の調査を実施し、実測図の作成や写真撮影などを行いました。

【名取古文書学習会】古文書等調査

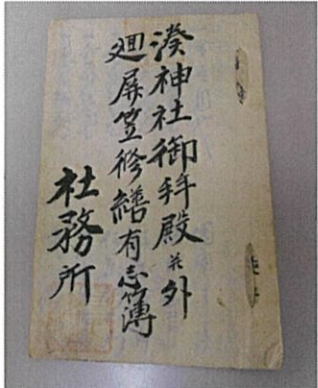
近代以前の書籍、文書、新聞記事等、写真、絵画、絵図等を調査対象としました。

平成27年度には、名取に関わりのある資料2,460項目について、名称・年代・所有者や所在地をまとめた資料リストの作成を行いました。

また、平成28年度には、その中から、熊野信仰関連や旧街道等に関わるもの、近世以降の名取を知る上で基礎となる資料を抽出し、実物や複写物の記録写真撮影や資料複写(480件)を行ったほか、奇跡的に被災を免れた閑上湊神社文書の基礎データの作成と記録写真撮影を行なっています(357件)。

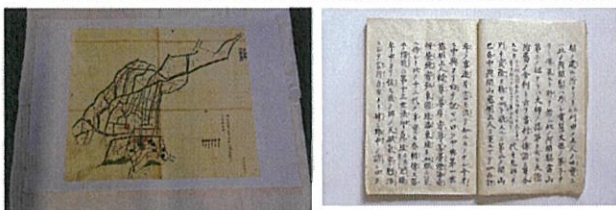
名取古文書学習会

通し No.	種別 No.	種別	タイトル	数量・ 単位	内 容	成立年(範囲)	形態・注 記等	紙丈・幅 寸法、部 位の有 無	原本・写本・原本の所蔵先	備考(複製印刷本、印刷 本所蔵先、所蔵地など)
2352	147	絵図 等	縮図(名取郡下余 田村 01065)(60 ×82) 明治8年 複 製コピー有	1 枚	①宮城藩管轄前第八大区名取郡小二区下余田 村縮図 ②明治8乙亥年 ③宮城風土記前名取郡下 余田村第八大区小2区(名取郡25下余田村) ④縮尺 なし・彩色有 ⑤方位図	明治8 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭和 63-0234 V-0234
2353	168	絵図 等	縮図(名取郡吉田 村 01066)(83× 155) 明治8年10 月 複製コピー有	1 枚	①宮城藩管轄下第八大区小七區吉田村 ②明治8年1 0月 ③宮城風土記前第八大区小7区(名取郡26吉 田村) ④縮尺なし・彩色有 ⑤方位図(平丈)、三等 測路、三等川	明治8 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭和 63-0235 V-0235
2354	169	絵図 等	縮図(名取郡野 庭村 01066)(81 ×173) 明治8年1 0月 複製コピー有	1 枚	①宮城藩管轄第八大区名取郡小七區野庭村 ② 明治8年10月 ③宮城風土記前野庭村第八大区小 7区(名取郡27野庭村) ④縮尺なし・彩色有 ⑤ 縮尺なし(軸付)、二等川、方位図	明治8 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭和 63-0236 V-0236
2355	170	絵図 等	縮図(名取郡二本 木村 01066)(41× 58) 複製コピー有	1 枚	①縮尺なし(明治7乙亥年) ②縮尺なし(明治 7乙亥年) ③縮尺なし(明治7乙亥年) ④縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑤縮尺なし(明治7乙亥年) ⑥縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑦縮尺なし(明治7乙亥年) ⑧縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑨縮尺なし(明治7乙亥年) ⑩縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑪縮尺なし(明治7乙亥年) ⑫縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑬縮尺なし(明治7乙亥年) ⑭縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑮縮尺なし(明治7乙亥年) ⑯縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑰縮尺なし(明治7乙亥年) ⑱縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑲縮尺なし(明治7乙亥年) ⑳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉑縮尺なし(明治7乙亥年) ㉒縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉓縮尺なし(明治7乙亥年) ㉔縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉕縮尺なし(明治7乙亥年) ㉖縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉗縮尺なし(明治7乙亥年) ㉘縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉙縮尺なし(明治7乙亥年) ㉚縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉛縮尺なし(明治7乙亥年) ㉜縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉝縮尺なし(明治7乙亥年) ㉞縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉟縮尺なし(明治7乙亥年) ㊱縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊲縮尺なし(明治7乙亥年) ㊳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊴縮尺なし(明治7乙亥年) ㊵縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊶縮尺なし(明治7乙亥年) ㊷縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊸縮尺なし(明治7乙亥年) ㊹縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊺縮尺なし(明治7乙亥年) ㊻縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊼縮尺なし(明治7乙亥年) ㊽縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊾縮尺なし(明治7乙亥年) ㊿縮尺なし(明治 7乙亥年)	明治7 1874 ~ 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭和 63-0237 V-0237
2356	171	絵図 等	縮図(名取郡野 庭村 01066)(41× 59) 複製コピー有	1 枚	①縮尺なし(明治7乙亥年) ②縮尺なし(明治 7乙亥年) ③縮尺なし(明治7乙亥年) ④縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑤縮尺なし(明治7乙亥年) ⑥縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑦縮尺なし(明治7乙亥年) ⑧縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑨縮尺なし(明治7乙亥年) ⑩縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑪縮尺なし(明治7乙亥年) ⑫縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑬縮尺なし(明治7乙亥年) ⑭縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑮縮尺なし(明治7乙亥年) ⑯縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑰縮尺なし(明治7乙亥年) ⑱縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑲縮尺なし(明治7乙亥年) ⑳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉑縮尺なし(明治7乙亥年) ㉒縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉓縮尺なし(明治7乙亥年) ㉔縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉕縮尺なし(明治7乙亥年) ㉖縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉗縮尺なし(明治7乙亥年) ㉘縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉙縮尺なし(明治7乙亥年) ㉚縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉛縮尺なし(明治7乙亥年) ㉜縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉝縮尺なし(明治7乙亥年) ㉞縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉟縮尺なし(明治7乙亥年) ㊱縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊲縮尺なし(明治7乙亥年) ㊳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊴縮尺なし(明治7乙亥年) ㊵縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊶縮尺なし(明治7乙亥年) ㊷縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊸縮尺なし(明治7乙亥年) ㊹縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊺縮尺なし(明治7乙亥年) ㊻縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊼縮尺なし(明治7乙亥年) ㊽縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊾縮尺なし(明治7乙亥年) ㊿縮尺なし(明治 7乙亥年)	明治7 1874 ~ 1876		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭 和63-0238 V- 0238
2357	172	絵図 等	縮図(名取郡野 庭村 01066)(41× 6) 複製コピー有	1 枚	①縮尺なし(明治7乙亥年) ②縮尺なし(明治 7乙亥年) ③縮尺なし(明治7乙亥年) ④縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑤縮尺なし(明治7乙亥年) ⑥縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑦縮尺なし(明治7乙亥年) ⑧縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑨縮尺なし(明治7乙亥年) ⑩縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑪縮尺なし(明治7乙亥年) ⑫縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑬縮尺なし(明治7乙亥年) ⑭縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑮縮尺なし(明治7乙亥年) ⑯縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑰縮尺なし(明治7乙亥年) ⑱縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑲縮尺なし(明治7乙亥年) ⑳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉑縮尺なし(明治7乙亥年) ㉒縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉓縮尺なし(明治7乙亥年) ㉔縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉕縮尺なし(明治7乙亥年) ㉖縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉗縮尺なし(明治7乙亥年) ㉘縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉙縮尺なし(明治7乙亥年) ㉚縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉛縮尺なし(明治7乙亥年) ㉜縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉝縮尺なし(明治7乙亥年) ㉞縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉟縮尺なし(明治7乙亥年) ㊱縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊲縮尺なし(明治7乙亥年) ㊳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊴縮尺なし(明治7乙亥年) ㊵縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊶縮尺なし(明治7乙亥年) ㊷縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊸縮尺なし(明治7乙亥年) ㊹縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊺縮尺なし(明治7乙亥年) ㊻縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊼縮尺なし(明治7乙亥年) ㊽縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊾縮尺なし(明治7乙亥年) ㊿縮尺なし(明治 7乙亥年)	明治7 1874 ~ 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭 和63-0239 V- 0239
2358	173	絵図 等	縮図(名取郡小 塚原村 01066)(41× 60) 複製コピー有	1 枚	①小塚原村 ②なし(明治7年4月~明治9年11月 村境大塚小区) ③小塚原村(名取郡31小塚原村) ④縮尺なし・彩色有 ⑤縮尺なし(軸付)、二等川、方位 図	明治7 1874 ~ 1876		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭和 63-0240 V-0240
2359	174	絵図 等	縮図(名取郡日 道村 01067)(41× 6) 複製コピー有	1 枚	①縮尺なし(明治7乙亥年) ②縮尺なし(明治 7乙亥年) ③縮尺なし(明治7乙亥年) ④縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑤縮尺なし(明治7乙亥年) ⑥縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑦縮尺なし(明治7乙亥年) ⑧縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑨縮尺なし(明治7乙亥年) ⑩縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑪縮尺なし(明治7乙亥年) ⑫縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑬縮尺なし(明治7乙亥年) ⑭縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑮縮尺なし(明治7乙亥年) ⑯縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑰縮尺なし(明治7乙亥年) ⑱縮尺なし(明治 7乙亥年) ⑲縮尺なし(明治7乙亥年) ⑳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉑縮尺なし(明治7乙亥年) ㉒縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉓縮尺なし(明治7乙亥年) ㉔縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉕縮尺なし(明治7乙亥年) ㉖縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉗縮尺なし(明治7乙亥年) ㉘縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉙縮尺なし(明治7乙亥年) ㉚縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉛縮尺なし(明治7乙亥年) ㉜縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉝縮尺なし(明治7乙亥年) ㉞縮尺なし(明治 7乙亥年) ㉟縮尺なし(明治7乙亥年) ㊱縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊲縮尺なし(明治7乙亥年) ㊳縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊴縮尺なし(明治7乙亥年) ㊵縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊶縮尺なし(明治7乙亥年) ㊷縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊸縮尺なし(明治7乙亥年) ㊹縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊺縮尺なし(明治7乙亥年) ㊻縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊼縮尺なし(明治7乙亥年) ㊽縮尺なし(明治 7乙亥年) ㊾縮尺なし(明治7乙亥年) ㊿縮尺なし(明治 7乙亥年)	明治7 1874 ~ 1875		有	宮城藩公文書館	執行版文書 昭 和63-0241 V- 0241



湊神社文書の記録写真(一部)

平成27年度 古文書の種類や概要・所在地などの一覧表



平成28年度 一覧表にもとづく資料複写・写真撮影

図 21：名取古文書学習会の資源調査

【名取昔ばなし語りの会】民俗・風習等調査

市内に伝わる風習、民間信仰、民俗芸能、唄、民話等を調査対象としました。平成27年度には、名取に伝わる民話・物語などのとりまとめを行ったほか、増田、館腰地区を中心に伝承・伝説や風習(年中行事)について、現地調査や聞き取り調査を実施しました。

平成28年度には、その中から、熊野信仰やお浜降りの神事等について関係者への聞き取り調査を行ったほか、生業(紙漉など)や、平成27年度に一部実施した年中行事の追加調査、童唄などの調査を行いました。

